

環境学習みえ

2018年4月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年4回発行
表紙の人／中村保幸さん(左から2番目)と社員のみなさん（AGF鈴鹿株式会社）

2018 No.72

春

森を守り、水を育む
AGFグループの環境負荷低減の取組



森を守り、水を育む ～AGFグループの環境負荷低減の取組～



水

ボトルコーヒーやインスタントコーヒーなど、味の素AGFの商品づくりに欠かせないのが“水”です。三重県鈴鹿市にある生産拠点のAGF鈴鹿株式会社は、鈴鹿山脈に発し、伊勢湾に注ぎ込む一級河川、鈴鹿川の伏流水を使用しています。今回は地元根付いた事業を展開する、AGF鈴鹿株式会社を取組をご紹介します。

味の素AGF株式会社

味の素AGF株式会社(以下AGF)は、コーヒーを中心とした事業において、新しい価値の創造を通して人の心と生活に豊かさや潤いを提供しています。社名に含まれる「AGF」は、いつでもどこでも(Always)、「最高のおいしさ(Good Quality)」を全ての方々に(For You)を意味し、AGFの企業ビジョンにある、「一人ひとりのお客様に、いつでもどこでも、最高のおいしさで一杯の価値を提供する、日本発の愛される嗜好飲料メーカーを目指す。」を表現しています。

AGF鈴鹿株式会社

AGF鈴鹿株式会社は、現「味の素AGF株式会社」(以下AGF)の生産関係会社として平成18年4月に発足しました。「お客様に常に自信をもって商品提供できる安心品質の実現」を方針とし、生き生きと行動する日本一愛される嗜好品飲料生産会社をめざしています。そしてあらゆる企業活動において環境との調和をは

かり、地域社会の発展に寄与する企業として、更なる努力を続けています。

AGFは、コーポレートスローガンである「いつでも、ふう。AGF®」を實踐し、「ココロ」と「カラダ」の健康に貢献し、「従業員もお客様も幸せになれる会社」創りをめざしています。

【お話を伺った人】



いつでも、ふう。
AGF®
AGF鈴鹿株式会社
管理部 総務グループシニアマネージャー
なかむら やすゆき
中村 保幸さん
AGFコーヒーエキスパート・アドバンス

環境負荷低減の取組

AGFは、主力製品であるスティックコーヒーのコンパクト化や、インスタントコーヒーの袋化を積極的に取り組んできました。省包材化により、使用する紙やフィルムなどの資源を削減できるだけではなく、パッケージのコンパクト化による軽量化によりトラックへの積載量を増やす一方で、排気ガスなどの環境負荷を大幅に低減することもできました。また、詰替用インスタントコーヒーの使用を推奨し、家庭で簡単にゴミの量を減らせる工夫も行っています。さらに、使用包材の一部に植物性プラスチックを採用するなど、より環境に配慮した製品づくりを目指しています。

AGFグループの環境取組事例

スティック商品

容器包装のコンパクト化



紙使用量
7.2%
削減

プラ使用量
(石油)
13%
削減



インスタントコーヒー商品

詰め替え包装の環境取組のあゆみ



「ぽっとするエコ」マークの表示

AGFグループでは、「できるだけ環境にやさしい商品を購入したい」、「環境への取組を知りたい」というお客様のニーズにお応えするため、独自の環境マークである「ぽっとするエコ」マークを商品のパッケージに表示して、環境への取組内容を伝えています。

平成30年2月現在、135品種に表示されています。



このマークは「地球の緑」と嗜好飲料がもつ「やさしさ」を表現しています。

環境学習の場づくり

このようなAGFグループの取組を、工場を訪れるお客様や地域住民のみならず伝えていくため、AGF鈴鹿株式会社は子どもたちを対象とした環境教室や、工場のエコへの取組紹介など、環境学習にも力を入れています。また、秋に開催しているAGF鈴鹿サンクスデーでは「環境・CSR」のブースを用意し、イベントに参加された家族連れや子どもたちがエコへの取組を理解できる機会を提供しています。サンクスデー形式で各ブースを巡回しながら、子どもも大人も楽しめるイベントとして、またAGFグループが行っている様々な活動を紹介する場として、AGF鈴鹿サンクスデーはこれからも開催が予定されています。



AGFグループの森づくり活動



「ビーン太くん®」
AGF®公式キャラクター



※写真はAGF®が目指す森林のイメージです。

森を守り、水を育む「ブレンディ®の森」

AGFグループでは環境保全活動の一環として、「ブレンディ®の森」森づくり活動を行っています。これはAGF鈴鹿株式会社とAGF関東株式会社（群馬県）の両工場で使用する水の源流域の「森を守り、水を育む」活動で、三重県亀山市にある「ブレンディ®の森」鈴鹿の活動は平成26年に始まり、日差しを遮る不要な木の伐採やその木材を使用した歩道づくりなどの森林保全活動を行っています。活動は、認定NPO法人森林の風の指導のもと、AGFグループの従業員と味の素グループ各社からの参加により、これまでに全20回の活動を行ってきました。「森を守り、水を育む」この活動は、社員教育の一環としても行われており、参加したAGF鈴鹿株式会社の社員からは「この森を守ること、美味しいコーヒーを作り続けられるということとを認識できる貴重な機会だった」という声が上がると、好評な活動です。

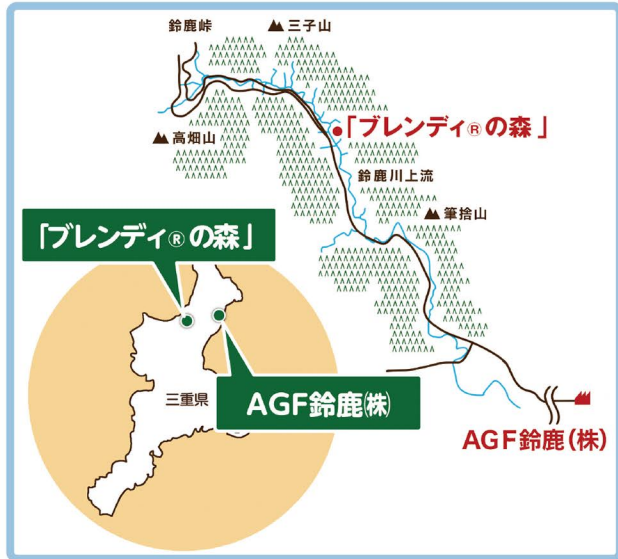


伐採した木は、歩道づくりに使用します





QRコード付き樹名板を読み取ると、認定NPO法人森林の風ホームページの樹木情報を閲覧できます



これまでの活動により、「ブレンディ®の森」鈴鹿内をぐるりと周遊できる山道が完成し、間伐エリアが拡張しました。山道脇にあるヒノキ、スギ、ヤマザクラなど、10種の樹木にQRコード付き樹名板を取り付け、憩いのベンチを設置するなど、お客様を招待できる森へと変化してきています。平成29年には、取引先と共同で一般のお客様を招待し、自然散策と丸太切りが体験できるイベントを開催しました。平成30年は、新たに活動エリアを拡大し、水辺周辺エリアの整備に取り掛かり、より水を育む環境づくりをめざしていきます。

お客様体験イベントでの散策の様子



丸太切り体験

持続可能な社会づくりをめざして

AGFグループは、取引先や地域の協力をさまざまな自然資源や生態系に支えられていることを大切に考えています。本業である商品設計から商品がお客様に届くまでのそれぞれの過程で環境負荷低減に取り組み、さらには、水を扱う企業として、水源となる地域の森林を守り育てています。企業が地域や社会と共に、地球環境と調和した持続可能な社会づくりをめざすAGFグループの経営姿勢に大いに期待したいと思えます。

写真・資料提供 AGF鈴鹿株式会社
味の素AGF株式会社

SDGs 追加情報

※2018年1月1日付で、ゴール10のアイコンが改定されました。

ゴール10の新しいアイコンは四方(全方向)の平等を目指す、より分かりやすいデザインになりました。



環境学習推進員の
安田 伸也が
報告します!

活動レポートVol.21

環境・体験講座などのようすを
紹介するゾウ!



三重県立四日市農芸高等学校 「紙すき体験」

平成30年1月11日(木)



この紙パックは
剥がしにくいね~



紙パックの両面についている
ビニールを剥がします



ビニールを剥がした紙と水を入れて
ミキサーにかけるとドロドロに

ぶんぶんぶん



金網を張ったハガキサイズの枠
を使ってすきます

ゆっくり
一往復してっつ

センターでも、県内各地への出前でも、
どちらでも開催可能です!

社会見学の時に、あるいは学校の授業、市民団体の
学習会、公民館の講座、企業の環境学習に「環境・体
験講座」をご利用ください。

「紙すき体験」

時間 90 ~ 120分

人数 10 ~ 25人

対象 小学生~大人

1講座 500円 ※学校授業の場合は無料

今回は、三重県立四日市農芸高等学校販
売情報コース3年生のみなさんに行った
「紙すき体験」の報告をします。牛乳などの
紙パックをリサイクルしてハガキを作る
体験講座です。

可燃ゴミとして出せば燃やしてしまう
ただのゴミですが、紙パックは良質なパル
プを使っているため、「洗って、開いて、乾か
して」分別して資源ごみにすれば、トイ
レットペーパーやティッシュペーパー、キッ
チンペーパーなどの身近なリサイクル製
品に生まれ変わることができます。

そっやっつて再生利用すれば、木材チップが

ら製造する過程よりも、エネルギーの削
減となって、CO₂の発生を抑制するの
で、地球温暖化防止にも貢献します。

1リットルの紙パックが6枚あれば、
トイレットペーパー1個を作ることが
できます。リサイクル商品とそうでは
ないもの、どちらを買ってもいいなど
思った時には「リサイクル商品」を選択
してほしいと思います。リサイクルする
ために分別して出すということは、環
境保全に結びつきます。

高校3年生のみなさんは、高校を卒
業した後は、自分で買い物をする機会

も増えると思います。その時にはごみ
を減らすリデュース・使える物は何度も
使うリユース・使えなくなったら原材料
に戻すリサイクルの3Rを心の隅に置
いて買い物をして欲しいのです。そして
「リサイクル商品を買う、リサイクル商
品を使う、リサイクルに出す」ことで資
源を循環させ、限りある資源を有効活
用していきましょう。

高校生のみなさん! 循環型社会の
担い手になってください。

【報告 環境学習推進員 安田 伸也】

環境・体験講座のご案内

水質チェック、買い物ゲーム、大気調査講座、ごみ・リサイクル講座、地球温暖化と省エネルギー講座、ふるしき活用講座、紙すき体
験、自然体験(自然観察、バードウォッチング、水生生物調査)、星たまごプラネタリウム、エコソング「うたおう&おどろう」など

©講座の内容や対象については、環境学習情報センター Tel (059)329-2000までお問い合わせください。お申し込みは、希望日の1か月前までをお願いします。



はみだしNEWS:メルマガ登録者をE-mailで募集中。氏名(ふりがな)、mailアドレスを明記し、info@eco-mie.comまで送信してください。

「大人のあそべるたいむ」

対象
16歳以上

材料費300円/事前申込必要

時間:13:30~15:00 人数:先着10人

「ウインドチャイム」

開催予定 ※9月以降の予定は随時発表します

- 5月23日(水)「竹炭を使ったウインドチャイム」
- 7月25日(水)「シュート布でつくる貝がらの壁掛け」
- 9月5日(水)「新聞ちぎり絵」



申込方法 各開催日の3ヶ月前より受付。詳しくは、お問い合わせください。

「あそべるたいむ」

対象
どなたでも

参加無料/申込不要

日時:毎月第2日曜日10:00~11:30 人数:先着15人

開催予定 ※9月以降の予定は随時発表します

- 4月8日(日)「木あそび」
- 5月13日(日)「紙コプター」
- 6月10日(日)「竹の輪のけん玉」
- 7月8日(日)「牛乳パックヨーヨー」
- 8月12日(日)「糸でんわ」
- 9月9日(日)「ゲームであそぼう」



センターへ遊びに来てね!

平成30年度に三重県環境学習情報センターにて開催する催し物をご紹介します♪

企画展示

開館時間内 観覧無料

4・5月 「アオツルの籠」作品展

下田 利幸氏

環境工房講師による作品展です。アオツルは太くて柔らかいので扱いやすく、さまざまな形に編むことができます。自然の素材ならではの素朴な色合いを楽しんでください。



6・7月 かがくであそぼ!

中部サイエンスネットワーク

中部科学技術センターでは、「かがく」好きの子供達を育てる取り組みを進めています。楽しい「かがく」の体験場所が探せるWEBサイト「かがくであそぼ!」の紹介と、工作や模型でエネルギーの大切さを伝える展示をします。



8・9月 四日市市に生息するフクロウ

三重県立四日市西高等学校 自然研究会
自然研究会が実践するフクロウ保護プロジェクトを通してわかったフクロウの生態やその魅力を写真や図を用いて解説します。



「春のキッズエコフェア」開催♪

工作や体験を通して環境について学べるイベントを開催します。

- 日時 4月21日(土)・22日(日) 10:00~15:00(雨天決行)
- 会場 三重県環境学習情報センター(四日市市桜町3684-11)
- 入場 無料 ※飲食および一部ブースで有料

21日(土) キッズスペース、工作、みえ星空環境案内人のみなさんによるプラネタリウムの上映などを行います。
※飲食ブースはありません。

22日(日) 自然エネルギー発電体験、木を使った工作など、県内で活躍する環境活動団体が多数出展します。
飲食ブースも出展します。

「春のワクワクふれあいまつり」

三重県環境学習情報センターと四日市市少年自然の家、四日市市ふれあい牧場、四日市市スポーツランドが合同でイベントを開催します!



両日とも各施設をつなぐ無料ループバスを運行しますので、ぜひご利用ください。

詳しくは「ワクワクふれブログ」 <http://wakufure.sblo.jp>



みなさんの環境学習・活動を応援します!

環境学習サポート制度 ボランティアスタッフを募集します

三重県環境学習情報センターのボランティアスタッフとして活動してみませんか?

センターの環境講座を受講して、何か活動を始めたいと考えている方や地域での活動を行うためのスキルを身につけたい方におススメです!

活動内容

- ◇イベントの手伝いやブース運営
- ◇工作講座補助
- ◇講座準備(屋外でどんぐりなどの木の实や海岸での貝がら集め等)
- ◇自然観察会等での講座補助や運営
- ◇センター主催講座補助(会場設営、受付など)

登録していただくと、いつ、どこで、どのような内容でスタッフを募集するかを、随時連絡させていただきます。都合に合わせて、積極的にご参加ください。

※若干の謝礼を用意します。

「環境学習サポート制度」

詳しくは、お問い合わせください。059-329-2000(担当:脇谷)

三重県環境学習情報センター 講座NEWS

詳細・申込方法については、ホームページ・チラシをご覧ください

PICK UP 環境講座はお近くでも開催できます

学校の先生の場合 地域活動団体の場合 自治体の場合

スキルアップにご利用ください。 メンバーの環境教育やスキルアップにご利用ください。 市町での環境活動を増やすきっかけにご利用ください。

環境講座は出前講座としても実施できます。詳しくはお問い合わせください。

スキルアップ講座 生態学シリーズ「共存と絶滅」

①9月8日(土) ②12月1日(土)

会場	①②三重県総合博物館 (津市) ※予定	締切	①8月10日(金) ②11月6日(火)
内容	①共存と共生 — この似て非なるもの— ②地域個体群の消滅と種の絶滅 — メタ個体群—		

環境学習指導者養成講座 環境基礎講座 全7回

会場	サン・ワーク津 (津市)	締切	4月28日(土)
----	--------------	----	----------

- ①5月19日(土)環境問題全般・公害・大気 ⑤7月7日(土)ごみ
②5月26日(土)地球温暖化 ⑥7月14日(土)森林
③6月16日(土)新エネルギー ⑦7月28日(土)ESD
④6月30日(土)水 (持続可能な開発のための教育)

スキルアップ講座 生物多様性シリーズ 「田んぼが育む生きものと人のにぎわいを守る取組」

10月20日(土)

会場	三重県総合文化センター (津市)	締切	9月18日(火)
内容	◇滋賀県で取り組んでいる「魚のゆりかご水田」について ◇圃場(ほじょう)整備事業での環境配慮施設の紹介と、その効果についての検証結果など。		

スキルアップ講座 森林インストラクター資格試験 合格支援講座

会場	みえ森づくりサポートセンター(津市) ただし6/3のみ三重県総合文化センターと三重県総合博物館	締切	先着順
----	--	----	-----

- ①5月20日(日)開講式 ④6月24日(日)森林3 ⑦8月19日(日)野外活動
②6月3日(日)森林1 ⑤7月8日(日)林業1 ⑧9月2日(日)安全教育
③6月10日(日)森林2 ⑥7月22日(日)林業2 ⑨9月9日(日)試験対策

環境講座 クモを観てみよう

6月2日(土)午前 ※午後スキルアップ講座開催(右欄参照)

会場	三重県上野森林公園 (伊賀市)	締切	5月12日(土)
内容	クモの探し方、クモの名前や生態についての解説など ◇クモについての簡単な説明(室内) ◇クモの観察等(野外) ※雨天の場合は室内でのお話になる予定		

スキルアップ講座 驚きのクモの世界 ～野外観察編～

6月2日(土)午後 ※午前環境講座開催(左欄参照)

会場	三重県上野森林公園 (伊賀市)	締切	5月12日(土)
内容	クモの名前や興味深い生態、採集の仕方、種の同定のポイントなどについて、学ぶ予定。◇クモについての概論(室内) ◇クモの観察等(野外) ※雨天の場合は室内でのお話になる予定		

環境講座 エコぞうウォーク ～センター周辺の自然を探検しよう～

②5月20日(日) ③9月2日(日) ④11月11日(日) ※①は終了

会場	環境学習情報センター周辺 (四日市市)	締切	先着順
内容	鈴鹿山系や山麓の景色、季節の変化を楽しみながら、三重県環境学習情報センターの周辺を散策します。 テーマ:②若葉・昆虫 ③昆虫・木の実・種子 ④紅葉・木の実		

スキルアップ講座 自然災害とどう向き合うか ～台風・異常気象編～

7月1日(日)

会場	三重県総合文化センター (津市)	締切	6月5日(火)
内容	◇地球温暖化について ◇近年の台風と異常気象 ◇自然災害に備えるための知識		

講座・イベント

開催時期

こども環境講座 夏休みこども環境講座	7月・8月
環境イベント 夏のエコフェア2018	7月21日(土) ・22日(日)
環境イベント 秋のキッズエコフェア	9月29日(土) ・30日(日)

講座・イベント

開催時期

環境学習指導者養成講座 しぜん工作のせんせい育成コース(仮称)	10月・11月・2月・3月 4会場で開催
環境学習指導者養成講座 自然観察指導員講習会	11月23日(金・祝) ・24日(土)
環境学習指導者養成講座 野鳥案内人講座(①基礎・冬) / (②基礎・早春)	①12月8日(土) ②3月3日(日)

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料 ※お気軽にお越しください



講座予定

Facebook @eco_zou

編集後記: 以前は濃くて甘いコーヒーが大好きでしたが、今は、さらっと薄めのブラックコーヒーが好みます。敢えてのコーヒータイムというより、日常の必需品になっています。生田久美